

平成22年度 第3回平田地域協議会 会議録 (概要)

1. 日 時／平成22年9月22日 (水) 午前10時～午後12時25分

2. 場 所／酒田市平田総合支所 302号室

3. 出席者／ (1) 1号委員 (団体推薦)

奥山仁委員・阿曾智子委員・和根崎勘一委員・堀弥志男委員・
長谷部耕次委員・佐藤力委員・加藤勝子委員・菅原律子委員 (副会長)

・・・計 8名

(2) 2号委員 (識見を有する者)

阿部敬子委員・富樫文雄委員 (会長) ・・・計 2名

(3) 3号委員 (公募)

佐藤達也委員・藤原幸雄委員 ・・・計 2名

(4) 酒田市平田総合支所 齋藤啓一支所長・石川忠春地域振興課長・

中條幸弥市民福祉課長・佐藤政好建設産業課長・

地域振興課 小松原毅地域振興主査兼地域振興係長・

地域振興課地域振興係 加藤千佳子主任

・・・計 6名

出席者合計18名

4. 欠 席／小林悟委員 (1号委員／団体推薦) ・

後藤保喜委員 (2号委員／識見を有する者) ・

富樫美雪委員 (3号委員／公募) ・・・計 3名

5. 傍聴者／1名

6. 次 第／ (1) 開会

(2) 平田地域協議会 会長あいさつ

(3) 平田総合支所 支所長あいさつ

- (4) 会議録署名委員の選任

- (5) 報告
 - ①大雨による被害状況について
 - ②過疎計画の策定状況について
 - ③平田地域の路線バスについて

- (6) 協議 平成23年度 地域づくり予算について

- (7) 地域課題について

- (8) その他

- (9) 閉会

7. 会議録／(1) 開会

▶石川地域振興課長

(2) 平田地域協議会 会長あいさつ

▶富樫会長

おはようございます。今年は非常に暑い夏となり、稲作については1週間から10日くらい収穫が早まると報じられているとおり、今が稲刈りの真っ最中である。しかし、9月のこの時期にどうしても地域協議会が必要ということで、本日の開催となった。

平田地域にも課題があるわけだが、この情報化社会の中、私たちも委員としていち早く情報を取り、それを一つひとつの課題の解消にどう生かしていくかが大切だと考えている。地域課題に対して真摯に向き合い、積極的に行動する地域協議会としてこれからも進んでいきたい。皆様のご協力、ご指導をお願いいたします。

(3) 平田総合支所 支所長あいさつ

▶齋藤支所長

ご苦勞様です。あまりにも暑すぎた夏が終わったと思ったら、今度は雨が止まらない。まさに異常気象となり、農作業の遅れを心配している。加えて11日からはゲリラ豪雨にやられた。特に鹿島では、沢から流出した土砂で田や水路が埋まるなど、相当の被害箇所数となっている。市

でも地元の方々と協力体制を組みながら、いち早い復旧に向け努力しているさなかである。春の稲作に支障のないよう、頑張っていきたい。

(4) 会議録署名委員の選任

▶ 富樫会長

会議録署名委員として、佐藤力委員を選任いたします。

(5) 報告

①大雨による被害状況について

▶ 石川地域振興課長（資料に沿って説明）

▶ 佐藤建設産業課長（資料に沿って説明）

▶ 長谷部委員

平田では、平成16年に激甚災害という経験もあるわけだが、市、県、国それぞれの被害箇所について、復旧に関わる予算は今後算出されるのだと思うが、復旧に向けたとらえ方はどうなっているか。

▶ 佐藤建設産業課長

現在、被害箇所の管理区分を把握しながら、予備費で対応する部分、補助事業で復旧する部分などの調査を進めている。県の事業については、補助事業、県単事業といった対応について、まだ振り分けをもらっていない。

▶ 長谷部委員

平成16年の災害時、被害額としては約6億円ということで、これを激甚災害に繰り入れたのだが、次年度の農作業には支障のあるような復旧状態であった。この時は、緊急に国や県に意見を申し述べ対応してもらった。しかし、今田んぼを起こして代掻きが始まろうというのに頭首口の工事ができていないなど、そのとらえ方が非常に甘かった。激甚災害と一般災害とは対応の仕方が根本的に違うものだが、どうも地域の方々にとっての緊急性、困窮性に対する認識、とらえ方が薄いのではないかという感じがする。今回は地元とのコンセンサスを十分にとり、前回のようなことのないようお願いしたい。

▶ 齋藤支所長

ご指摘ごもっともだと思う。まずは秋の作業に支障のある箇所、あるいは来年春の作業に支障のある箇所について把握をした上で、それに対して支所としてもできる限り対応し、ご指摘のようなことが起こらないよう十分気を付けていきたい。

②過疎計画の策定状況について

▶石川地域振興課長（資料に沿って説明）

▶佐藤力委員

平田地域における共通の課題といえば、長年の懸案である、生涯学習センターの機能強化も含めた仁助新田を中心とする中山間部の活性化である。この中山間部の活性化に向けては、生活に直結する買い物への支援や空き家対策などいろいろある。仁助新田においては、9月で農協の支店も廃止されたわけだが、民間は採算の合わない事業は行わない。しからばこのままでいいというわけにはいかないの、行政として取り組むべきである。中山間部の要として、今後仁助新田周辺にどういった整備を行っていくのか。過疎債の活用も含め、実現に向け地域協議会として具体策を集約し意思統一をして、市に対し要望していくべきである。

▶齋藤支所長

中山間地域の要としての仁助新田周辺の開発や、生涯学習センターの機能強化については、相当前から課題となってきた。合併前には、生涯学習センター西側の土地を取得し宅地造成などで人口増につなげ、周辺を活性化していこうと考えたところである。しかし現在、その土地は更地の状態である。今回過疎計画の策定に向け、その周辺をいかにしていくかを考えたとき、総合支所としては、生涯学習センターと西側の土地とを合わせた形で機能強化を図っていくのが一番いいだろうとの考えであることを、申し上げているところである。

現在生涯学習センターは、青少年スポーツの夏期合宿などでかなり頻繁に使われている。その辺りが一つ目の付けどころなのではないかと思っている。佐藤委員からは、中山間地域の要としての生涯学習センターのあるべき姿として、買い物など生活のためというご意見もあったが、そういった機能も含めた形でいければなお良いとも思うが、まずは西側の土地と合わせた機能強化を図るべきだという提案をしているところである。

▶佐藤力委員

少子化により学校統合の動きもあるが、飛鳥中学校については耐震試験も済んでいるわけだが、過疎計画の中で改修になるのか。将来的な、松山中学校との統合というのはいりうるのか。また田沢小学校については議論もされてきたが、体育館等についての善後策や対応について、現段階での考えを聞かせてもらいたい。

▶齋藤支所長

飛鳥中学校の改築か改修かということについては、両面を含め教育委員会で検討中である。田沢小学校についても、教育委員会で検討してい

るところである。飛鳥中学校と松山中学校との統合の関係は、しかるべき時期に教育委員会から説明があると思っている。

▶長谷部委員

今回、過疎について五つのコミュニティ振興会から意見を聴いたことは、課題の内容も見えてきたので非常に良いことだと思う。ただ、この聴き取りした意見や課題について、地域協議会としてどう取り扱うべきなのかが明確になっていない。悪い言葉になってしまうが、聞きっぱなし、言いつぱなしで、答えを追求するまでには踏み込んでないと感じる。

今回の資料によると、田沢コミュニティ振興会、東陽コミュニティ振興会では買い物や医療など、日常生活に関わる部分での課題が表に出ている。一方郡鏡・山谷コミュニティ振興会、南平田コミュニティ振興会、砂越・砂越緑町コミュニティ振興会では、合併課題として継続的事業という形で持ち込んだものが、その後どうなっているのかという課題が出ている。

こういった課題の解消に向け、地域協議会としてどう対応できるのか、すべきなのか。この集約した意見を、どう扱うのかがはっきりしていない。課題に対し、コミュニティ振興会と一緒に向かうことができるのかできないのか。これが地域協議会の一つの課題だと思う。課題ごとに15名の委員を班に分け、議会でいえば常任委員会のような形をとりながらコミュニティ振興会と意見交換していくというようなことはできないか。

中学校の問題などは、平田町時代の計画だと平成21年には新しい学校ができていたはずが、いまだにこういう形となっている。また悠々の杜自然歴史公園など、中途半端になっているものについて、我々委員も現状と課題をきちんととらえるべきだと思っている。富樫会長のご意見を伺いたい。

▶富樫会長

酒田市地域協議会設置条例の第1条には「地域住民の意見を行政に反映させるとともに、地域住民と行政との連携と協働を推進することにより、コミュニティ組織の育成、強化を図るため、合併前の八幡町、松山町及び平田町の区域毎に地域協議会を設置する」とある。また第3条には、「協議会は、設置区域に係る次に掲げる事項について市長の諮問に応じ審議し、意見を述べる」とあり、地域協議会は「地域内振興に関すること」「地域づくり予算に関すること」「地域内コミュニティ組織の育成、強化に関すること」について市長に申し上げ、行政に反映させるとしている。よって地域協議会としては、「行政にその意見を反映させ

るため、地域課題について議論していく」という一言に尽きると思う。

▶ 齋藤支所長

各コミュニティ振興会からお聴きした地域課題について、まずは総合支所の各課に周知し共通認識を持つようにしている。それを市の各部や各課と連携しながら検討しているのが現段階である。今後一つの考え方や案が出てくるが、これらについて地域協議会でご協議いただきながら、案件によってはコミュニティ振興会に入って説明をする機会も設けたい。こういったことを繰り返して作成した原案を、議会に提案して議決をいただくという流れになる。

今、15名の委員で班を作り、内容を検討してはどうかという意見と、富樫会長からも関連でご説明があった。各コミュニティ振興会から出された内容を見ていただければ、今後、必要によってはそういった対応が有効となるケースもあるかもしれないが、現段階では今説明した流れとなることをご理解いただきたい。

▶ 長谷部委員

これだけ多くの課題が出ているので、ポイントを絞らないとぼやけてくる。あれもこれも全部ということにはいかないわけで、どれを優先し何を訴えていくのが定まっていないと、時間は浪費するし答えも遠いものになっていく。絞り込んだ課題について、集中的に議論していくべきと考える。

南平田コミュニティ振興会から出された課題の中に、「砂越駅の駅員が早い時間いなくなってしまう。防犯を考えたとき、長い時間駅員がいたほうが良い」という意見があった。こういう問題は、もう既に地域の方々から理解されているものと認識していた。砂越駅の現在の管理については、行政側からこういう形でやりたいとの提案を受け、以前の業務委託内容を大きく変更したもので、予算も3分の1に減額となった。業務委託内容を変更する際、防犯上の問題が基本になるのでどうなのかとの議論はしたが、行政の方では問題がないということで、こういう形に押し切った。地元に対してどういう説明をしてきたのか、経緯などお聞きしたい。

▶ 齋藤支所長

砂越駅は酒田ふれあい商工会さんにお申し、運営していただいている。この件は過疎計画というより、現時点における砂越駅の運営についてであるので、情報を担当課へ伝えながら対応を検討していく。

▶ 堀委員

過疎計画の策定に向け、コミュニティ振興会から意見を聞いたわけだ

が、行政としては出された課題を吸い上げ、来年度以降の事業として取り組んでいくための過程であって、地域からの意見を受け今日の地域協議会で何かをするのではないという考え方でよいか。今後市から問いかけられた段階において、この場で協議していくということの確認でよいか。

▶ 齋藤支所長

過疎計画の内容については、現在市の各部、各課で調整しており、後日素案として提案される。この素案について地域協議会からご意見をいただくことになるが、その際に今回の資料も参考としていただきたい。

③ 平田地域の路線バスについて

▶ 石川地域振興課長（資料に沿って説明）

▶ 奥山委員

デマンドタクシーとは、自宅まで来てもらえるのか。

▶ 石川地域振興課長

デマンドタクシーは、自宅までタクシーが迎えに行き、目的地として指定されている病院、中町、酒田駅まで乗って行き、帰りもそこから自宅まで乗ってこられるという仕組みである。ただ、バス停に行けばいつでも乗れるというものではなく、利用するための登録と、利用日、時間帯、目的地についての事前予約が必要となる。現在運行している新堀と広野は1日おきの運行となっているが、平田地域での導入を考えた場合、アンケート結果にもあるとおり通学や通勤にバスを利用している方もいるため、毎日運行でないと利用についての地域要望には応えられないのではないかと考えている。

▶ 奥山委員

山間部でも路線バスは料金が安くいいのだが、路線までかなり遠い方もいる。そういった人たちは、食料品を買ってきてもバス停から自宅まで運ぶのが大変なようである。料金にもよるが、このデマンドタクシーは良い事業のように思える。

▶ 阿曾委員

行き先が病院などということだが、高齢者の買い物には使えるのか。

▶ 石川地域振興課長

デマンドタクシーは年齢や目的などの制限はないので、もちろん買い物にも利用できる。現在運行されている新堀と広野の路線については、行き先が自宅から日本海病院、酒田医療センター、中町、酒田駅の4カ所となっている。平田地域での導入を検討する場合、飛鳥や砂越へ買い物や通院で来る方も想定される。必ずしも自宅から市内の病院や中町と

ということではなく、目的地の設定については今後工夫していくことが可能である。デマンドタクシーは買い物にも十分活用できるが、平田地域で導入するには、路線バス利用アンケート調査の結果を見ても課題はあると考えている。

(6) 協議

平成23年度 地域づくり予算について

▶長谷部委員

「地域振興事業」の中の「生涯学習事業」の内容はどういったものか。

▶石川地域振興課長

生涯学習事業の内容について、大きい部分では「ひらた文化祭」の実行委員会への負担金がある。このほか各種作品展、パソコン教室、陶芸教室、さしこ教室に加え、旧阿部家の四季を楽しむ会が行う伝統行事への支援、講演会などを開催する際の小・中学校への支援なども行っている。

▶阿部委員

拠点とならない旧公民館について、地元の人たちがうまく活用できるような制度や方策を検討してもらいたい。山元では「まご滝」による交流事業などを展開しており、昨年度は交流事業の参加者を対象とする試食を行った。その際、試食だけではなく販売や食事の提供をしてはどうかとの提案があった。山元の旧公民館は良い施設であり、ここを活用すれば、せっかく来てくれた方たちにもっと良いサービスが提供できるのではないかと考えている。旧山元公民館を活用して地域の活性化が図られるよう、旧阿部家との連携も含め、施設の利用の仕方について考えていただきたい。

▶石川地域振興課長

拠点とならない施設は6カ所あるが、この施設はコミュニティ振興会設立以降の5年間、光熱水費等の維持管理費として、市からコミュニティ振興会へ補助金を交付しながら、コミュニティ振興会の事業を実施する施設として利用していただけるようお貸ししている。ただ6年目以降については、地域に払い下げていきたいという市の考えであり、希望があれば内容をお聞きしたい。老朽化している施設もあることから、利用目的がなければ解体も選択肢に入っており、施設の今後についてどうしていきたいかコミュニティ振興会と相談していくことになる。

ただ今例としてあがった旧山元公民館は、まだ新しい施設であり、いろいろな活用方法が考えられる。現在公民館という位置付けではない施

設については、ある程度自由に使えるような仕組みにはなっている。たとえばコミュニティ振興会として、公民館の調理室で作った食事を山元に来た方へ提供するということは、できないことではないと思うので、具体的な相談をさせていただきたい。施設の利用方法について、そこで商売をすとか、物を売ったりするという事になるとハードルが高くなると思うが、その辺も地域活性化に向けたお考えがあれば相談させていただきたい。

▶藤原委員

「町史編さん事業」について、予算も560万円と大きく、平田の歴史を残す大変労苦の多い仕事であろうと敬服している。発刊後は内外に販売されるわけであり、1冊の価格については高い設定となっているが、町史編さん事業の予算と販売して入ってきたお金との関係について、説明いただきたい。

▶石川地域振興課長

町史編さん事業は平成22年度で560万円の予算額であるが、平成22年度に年表を発刊してすべての事業が完了する。平田町史については1冊4千円で販売し、毎年の売り上げが40万円程度あるが、それは市の収入となり町史編さん事業の財源に充てられる。平成20年度に発刊した平田町史下巻は、500部印刷した内300部ほど残っているため、今後も収入は見込める。

しかし、発刊するためには印刷製本費だけではなく人件費的なものも必要であり、1冊4千円という金額で町史編さんに係るすべての財源をまかなうということではなく、一般財源を充てることになる。1冊4千円という価格は、県内を含め一般的な町史、市史の価格を参考にしながら設定した。

▶加藤委員

アイアイひらた行きのバスについて、現在は砂越緑町のジェイエフシー前に停まるが、一人暮らしの方から砂越緑町公民館の前に停めてもらえないかとの要望があった。その理由は、屋根のあるバス停でもあればいいが、夏場は非常に暑く、日中だと待つのが大変だということであった。

▶石川地域振興課長

アイアイひらた行きの路線バスについては、松山から砂越駅を経由してアイアイひらたまで運行する福祉乗合バスがあるが、これは停留所方式で運行しており、集落の中まで入ることはしていない。運行形態の変更にも関わるため、今ここで可否について申し上げることはでき

ないが、そういった停留所方式であることはご理解いただきたい。今回お話しを伺ったので、まずは検討させていただきたい。

▶佐藤達也委員

「小学生バス利用助成事業」の、平成22年度よりコミュニティ振興会連絡協議会の事業へ移行ということについて説明いただきたい。

▶石川地域振興課長

小学生バス利用助成事業は、平田地域内における小学生のバス利用について、夏休み等を含め学校が休みの日は無料で乗れるというものである。利用状況としては、乗る人は何度も乗るが利用者は固定化しており、平成21年度の利用者は延べで70人程度にとどまるなど年々利用は減ってきている。こうしたことから、市の事業としては平成21年度をもって廃止とした。しかし、利用している地域や学校などからの要望等もあり、平成22年度からは五つのコミュニティ振興会で組織する平田コミュニティ振興会連絡協議会から事業を受け継いでいただき、当分の間支援を継続していこうということで、現在も利用者の負担なしで乗れる仕組みとなっている。

▶佐藤達也委員

利用する小学生は、おそらく高学年が圧倒的に多いのではないかと。良い事業だと思うが、中学生からの要望はないか。自転車で南ジャスコまで行ったという話もよく聞くが。

▶石川地域振興課長

市の事業であった時も含め、中学生まで利用拡大することへの要望はなかったように思う。

▶菅原副会長

「地域振興事業」の中の「庄内ひらた目ん玉まつり」について、この事業は平田の住民だけでなく、平田以外からも大勢集まって盛り上がる、地域にとって大きなイベントである。このまつりに関し、酒田ふれあい商工会さんからは特に頑張ってください花火を上げてもらっている。この花火はみんなが楽しみにしているが、予算については商工会の皆さんが会社や自治会から寄付を集めるなど、大変苦労しながらも、平田地域の皆さんから楽しんでいただきたいという思いでやっけていただいている。庄内ひらた目ん玉まつりについて、予算を増額していただきたい。

▶佐藤建設産業課長

庄内ひらた目ん玉まつりについて、花火は酒田ふれあい商工会さんから実施していただき、他の催しについては酒田ふれあい商工会、庄内みどり農業協同組合、酒田市婦人会平田支部、未来塾で組織する実行委員

会で実施している。実行委員会の事務局は総合支所の建設産業課に置いている。先日、まつりの決算報告と反省会を行ったが、来年の花火の実施については、道路の整備状況もあるため現時点では判断できないということで保留となっている。

催しについては、ひらたタウンセンター北側で盆踊りなどを行っているが、今年は雨のため中止となり、花火と「ギネスに挑戦。巨大目玉焼き」は延期して実施した。雨が降ると催しを中止せざるを得ないところがあるが、予算があれば様々な工夫もできると思うので、よろしく願いしたい。

▶佐藤力委員

予算のことは大事である。地域づくり予算について、継続事業が完了するなど合併当初から減っていることについては納得している。新規事業を立ち上げるのはなかなか難しく、おいそれと予算は付かないだろう。菅原副会長の発言にあったとおり、庄内ひらた目ん玉まつりは本当に平田の全地域、すべての住民を挙げて行われている。開催時期が夏ということで、帰省客もおり楽しみにもしている。ここに予算をかけても十分効果はあると思うし、それが行政の役割だと思う。ぜひ増額を実現してもらいたい。

▶長谷部委員

花火については、酒田ふれあい商工会の役員が事業所や自治会などを訪問しながら、協賛金を募っている。現在の経済状況のこともあるし、基本的に市ではやめなさいとのことである。ではやめた場合、平田地域に一体何が残るのかということになる。平田の皆さんからも評価をいただいており、花火に対し地域協議会からもご協力をお願いします。

▶和根崎委員

庄内ひらた目ん玉まつりについて、各自治会などとの連携を密にして参加者が増えるような企画をしていけば、さらに盛大になると思う。

「花いっぱい推進事業」について、私の地区では昨年からは、率先して種をもらい、親子や家族で育てて公共的な所に植えている。苗をもらって植えるということもしていたが、発芽率もほぼ100パーセントで必ず花が咲くし花持ちも良いことから、来年は種だけをもらう予定でいる。親子や家族が一緒になり種から花を咲かせるという形で、地区内の各組織をも巻き込みながら、前向きに成果が上がるようなことをしていきたいと思っている。

▶藤原委員

「ふるさと会交流促進事業」について、「首都圏ふるさと平田会総

会」に参加された方は大変喜んで交流を深めているとのことだが、平田地域の学校からの参加について検討いただけないか。具体的には、小・中学校3校の校長とか、あるいは平田地域の学校を代表してであるとか。

私は高瀬小学校にお世話になっていたとき、東京高瀬会に毎年招待を受け出席させていただいた。また蕨岡小学校にお世話になっていたときには在京蕨岡会というのがあり、これにも校長か教頭が招待されていた。出席すると、向こうの方は大変喜んでくれる。学校文集を差し上げたり、学校だよりやPTA会報を置いてきたりすると、今ふるさとの子どもたちはこうなっているのかということで、大変喜んでいただいた。ご検討いただきたい。

▶石川地域振興課長

今年の首都圏ふるさと平田会総会では、平田地域の近況ということで、小・中学校の児童・生徒数とか、それぞれの学校における取り組みなどを紹介した資料を作り、参加者全員に配布した。向こうで生活されている方にとって、ふるさとの情報というのは懐かしく感じられると思う。ただ今ご提案のあった、直接先生が行って学校の様子を報告するといったことも大変貴重なことだと思うので、検討させていただきたい。

▶富樫会長

本日欠席している後藤委員より、「都市・農村農業体験交流推進事業」についての提案があったのでお伝えする。

『「ひらたファームステイ」について、その意義や効果は十分理解している。しかし、高齢化等もあり受け入れ家庭の負担は年々大きくなり、平田地域として単独で実施するのは限界にきているのではないか。』とのご提案であり、今後検討していただきたいとのご要望であった。

(7) 地域課題について

▶菅原副会長

砂越緑町には消防団が組織されていないため、必要ではないかという話が出ている。現在消防団がなく、分からない部分もあるので助言いただきたい。

▶石川地域振興課長

砂越緑町の消防団については、条例上も平田町当時から班が設置されていない。今回話が出たのは、砂越・砂越緑町コミュニティ振興会を設立する経緯の中で、「砂越には消防団があるので、砂越緑町にも消防団を作り、自ら地域を守っていくことが必要なのではないか」ということだと思う。現在平田地域の消防団については、班があっても定員に達し

ていないところも多くあり、特に中山間においては班を一緒にしなければならぬところも出てきている。

そういった状況の中、砂越緑町では消防団に入りたいという人もいるので、新たな班を組織しポンプ等も配備してやっていきたいということであれば、検討はできると思う。また、砂越の班に砂越緑町の若い人も入り、砂越と砂越緑町の班として一体となって防災活動を行っていくという考え方もあると思うので、自治会でもご検討いただいて、また相談していただきたい。

▶和根崎委員

消防団について、今コミュニティ振興会ができたことで、私の方の第30分団は、南平田、郡鏡・山谷、東陽という三つのコミュニティ振興会にまたがることとなった。コミュニティ振興会の中でも防災体制についての話が出ており、消防団の再編について、検討が必要な時期に差し掛かっていると思う。各コミュニティ振興会でも、防災に関する様々な装備を整えるため、30万円から40万円くらいの予算を持っている。分団とコミュニティ振興会とで区域が異なるとなると、矛盾が生じるということにもなるので、地域協議会でも検討していただきたい。

▶富樫会長

農業に関して要望したい。国の農業政策が大きく変わり、平成23年度からの本格実施に先駆け、今年度から水田農業に対する「戸別所得補償モデル対策」がスタートした。その目的は、食料自給率の向上に向けた、不作付地を改善しての水田の有効利用や農業者の経営安定である。平田地域において農業は基幹産業であり、また新たな制度であるため、農業者にとって不利益や負担とならないよう進めていただきたい。

これをもちまして、第3回平田地域協議会を閉会いたします。